

# 園長先生の子育てひろば

令和5年10月

先日、作曲家であり、ピアノや鍵盤ハーモニカの演奏者でもある野村誠さんにおいでいただいて、音楽遊びやセッションを行いました。

面白かったのは、学年で遊ぶ内容がとても違ったことです。

右の写真は、年少さんとの音楽遊びの一場面です。

野村さんが乗っているのは、ジャンベというアフリカ起源の太鼓です。なんと太鼓を横倒して、電車に見立てています。



前に女の子が乗り、後ろでは男の子が蛙のおもちゃ（蛙の背中には刻みが入っていて、棒でこすればゲロゲロと蛙が鳴くようになっていっているおもちゃです）を野村さんの背中に乗せています。そして、さっそく「背中に蛙はいーますかあ、ゲロゲロ、ゲロゲロ」というような歌が出てきました。子どもたちは、その歌に反応して、蛙をどこかに連れていったり、「帰ってきましたよお」と唱えながらまた背中にくっつけたりしていました。子どもたちは、ちゃんと手に黄色い卵型のマラカスを持って「シャンシャン」と鳴らしていました。この頃の見立て遊びと音楽遊びがミックスしていますね。

でも、年中・長さんになると、楽器を楽器として遊ぼうとしてきます（下方左写真）。いろんな楽器を試したり一緒に打ち合ったり・・・しかし、やみくもに楽器を触っても、そこから自分たちだけでは、なかなか発展しません。そこに、鍵盤ハーモニカが登場しました。見てください、この注目度！（可能右写真）♪鍵盤ハーモニカ～♪♪いろいろな奏法がある～♪と唱えると、そのメロディーが今度は鍵盤ハーモニカで吹かれます。子どもたちは聞いているうちにそのことがわかったようで、笑いがこぼれました。



こうなってくると、もう本格的に音楽で遊びたいものです。そこで、セッションがはじまりましたよ。野村さんのピアノや演奏に合わせて、即興演奏です。年中・年長の各クラス、順番にそれぞれセッションしていきました（次頁1枚目）。最初のセッションでは、子どもたちは何かわからないけれど、とにかく一緒に楽器を打つという感じで即興演奏していましたが、クラスが代わっていったり、学年が上がっていったりしてくると、違うリズムで打ったり、ピアノ演奏にあわせて打ち方や表情を変えてみたり、速度や強弱をよく聴いてそれに応じて反応したりするようになりました。よく聴いているものです。特に年長さんの中には裏打ちのリズムをしっかりと打っている子もいて、学年の違いを感じました。

こうなってくると、お別れの「ありがとう」も即興で音楽になりましたよ（2枚目写真）。みんなピアノのまわりに集まって、♪ありがとう♪♪ありがとう♪の即興歌になりました。



この日は、だれも「このように打ちなさい」というような楽器の指示は聞きませんでした。いつの間にかそれぞれの年齢に応じた音楽になっていました。

このようなことは、お家でも参考になります。お家で子どもたちが楽器をガンガンうるさく鳴らすだけの様子を見たら、その楽器はどんな音が出るかなと、お子さまと一緒に探してみてください。そして、何かことばをわらべうたのように唱



えてみてはいかがでしょうか。たとえば、雨が降っていたら♪雨がザーザー降ってます ザーザー♪とか唱えながら♪ザーザー♪で楽器と一緒に打ってみたり、♪おやおや雨がやんできた ポツン…ポツン…♪と唱えながら、今度は楽器をそっと小さな音でゆっくり打ってみたりと変えてみます。そうしていると、子どもも一緒になって歌ったり、♪ザーザー♪や♪ポツン…ポツン…♪の部分で一緒に楽器を打ったり、音の大きさを変えてみたりします。そういうことから、大きく打つ、小さく打つ表現の違いを自然に知っていきます。楽器はガンガン打つものではなくて、いろいろな音が出るのだと自らわかっていくかと思います。音を見つける、音の表情を見つける、そんな楽しい場ができるといいですね。